

古えより和親は多く国を誤る

書から見る鍋島直正の憂患



平成29年
12月10日〔日〕13時半〜15時

講師 古川英文（当館副館長）

場所 佐賀城本丸歴史館 外御書院

※聴講無料

問合せ先 佐賀県立佐賀城本丸歴史館

佐賀市内二一八八一 電話〇九五二一四一七五五〇

オランダ国王ヴィレム2世が幕府に開国を勧める親書をもたらした弘化元年（一八四四）、鍋島直正（閑叟）は漢詩の冒頭に「古えより和親は多く国を誤る」と記した。閑叟自らがこの詩を揮毫した掛軸がこのほど発見された。ところが、その書は作詩の時期から二十年ものちの筆跡と推定されるのである。なぜ、時を隔てて再び閑叟の脳裏にこの詩が想起されたのか？ 寒夜灯火のもと、孤独に對外関係を憂慮する閑叟の姿を追う。